

(六) 阿土谷（射塚谷・あづちだに）

東林木町の鳶が巢山の南斜面にある谷を「阿土谷」と言います。

昔、戦国時代に鳶が巢城の麓の西林木と東林木の境界をまたぐ小高い丘が調練の馬場であり、南に折れて通称「馬乗馬場」と言われています。

その辺りから現在の鳶巢幼稚園付近に「塚（あづち）」があったと言ひ伝えられています。

「塚（あづち）」とは、弓を射る的（まと）をかけるために、土塀を築いたものです。

この地区に弓術の訓練場があったことから、「射塚・あづち・阿土」となったものと思われます。

出雲国風土記時代から近年までは、林木には山手往還道が通っていましたが、「阿土谷」町内に建っている旧小学校校舎の中を山手往還道が通っていたと古老が話してくれました。

また、尋常小学校時代の体育の時間に、学校裏手の「射塚谷」に沿って鳶が巢城址へ道が付いており、そこを登って体育の授業を受けたそうです。

この道は昭和四十年頃までは何とか歩ける道だったそうですが、今では、雑草や立ち木が生え茂り獣道に変わっています。

